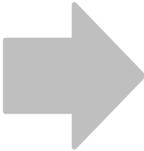


2021年度最終審査結果 受賞テーマとデザイン提案の例

<p>テーマ 広色域の印刷表現と立体的質感を表現する「印刷技術」 企業：株式会社新晃社（北区）</p>	<p>最優秀賞</p>	<p>提案 特殊印刷加工技術を応用したプロダクトと実験ブランド開発 提案者：歌代悟</p>
<p> Kaleido Plus®のインクを用いてRGBの広い色表現領域を、オフセット印刷の4色機でも再現することができる印刷方法により、鮮やかな自然の色合いを再現した印刷物を作ることが可能となる。 また、擬似エンボス加工により、多彩な手触りを実現できる、デザインの表現が広がる技術である。</p>	<p></p>	<p>企業の持つ技術と、技術そのものへの認知を拡大するビジネスプロジェクト提案。特殊印刷加工技術の研究、開発、発信を目的としたブランド展開と、そのはじまりとなるプロダクトを提案。</p> <p></p>
<p>テーマ 電子回路とプラスチックの「設計・試作・加工技術」 企業：泰興物産株式会社（立川市）</p>	<p>優秀賞</p>	<p>提案 光を使ったウェルネスプロダクトの提案 提案者：井下恭介、増谷誠志郎 (SANAGI design studio)</p>
<p> 電子回路設計から製品設計、金型製造、射出成形まで自社内で実施することが可能。アイデアをカタチにするのを得意としており、若手技術者を中心として、設計・試作過程はほとんどの加工を社内に対応。柔軟な発想でものづくりに取り組んでいる。</p>	<p></p>	<p>企業の強みである開発力と技術力を活かした、光のうつろいで「時間をゆるく伝える」タイマー兼卓上照明の提案。</p> <p></p>
<p>テーマ さとうきびの搾りかすから生まれた「サステイナブル素材」 企業：株式会社Rinnovation（文京区）</p>	<p>優秀賞</p>	<p>提案 資源循環を実現するサステイナブル・アパレルブランド戦略 提案者：小林諒（株式会社Onesal） 上田和実、武市美穂 (株式会社ナディア)</p>
<p> さとうきびの搾りかすで、未利用資源である「バガス」を原材料とした素材を開発。日本の伝統的なものづくりの技術を独自に掛け合わせ、バガスからパウダー化、和紙、スリットの工程を経て和紙糸を生成し、その和紙糸とcotton USAで生地を織布している。</p>	<p></p>	<p>企業保有の素材を活かした、サブスクリプション型のアンダーウェアブランドの提案。企業が目指す資源循環を実現するとともに、さとうきび産業が抱える課題解決にも寄与していく。</p> <p></p>

2022年度 東京ビジネスデザインアワードの流れ(予定)

<p>企業からテーマを募集 (4月13日～6月22日)</p>	<p>都内ものづくり中小企業から、自社保有の高度な技術や特殊な素材などを「テーマ」として募集。</p>
<p>テーマ発表 (9月)</p>	<p>審査委員会が10テーマ程度を選定し、HP等にて発表。</p>
<p>デザイナーからの提案募集 (9月～10月)</p>	<p>選定テーマに対し、デザイナーがあらゆる可能性を検討し、新たな用途開発を軸とした事業全体のデザインを提案。</p>
<p>一次審査・二次審査 (11月)</p>	<p>一次審査・二次審査を経て、テーマ毎に企業とデザイナーのマッチングが成立したものを「テーマ賞」として選出。</p>
<p>最終審査・表彰式 (2023年2月)</p>	<p>テーマ賞の中からデザイナーの公開プレゼンテーションにより、「最優秀賞」・「優秀賞」を決定。</p>